



◆ミュージアム青山讃頌舎ってどんな施設？

別府の地震除災で有名な大村神社に隣接した美術作品などの展示専用施設です。

建物は、青山の風景をこよなく愛した水墨画家・**穉月明**（1929-2017）により建てられ、没後、市に寄贈されました。

展示室は、露出展示の落ち着いた雰囲気ゆつたりと作品を鑑賞いただけます。また、併設している茶室は本格的な茶事ができ、借りることも見学もできます。



外観



展示室

【問い合わせ】
○美術博物館建設準備室 ☎ 41-0400 FAX 22-9694
○伊賀市ミュージアム青山讃頌舎 ☎ 52-2100

ちなみに「青山讃頌舎」という名前は、地名の青山とその豊かな山河を称え本人が命名したものです。ここでは年間を通して穉月作品の展示のほか、伊賀市ゆかりの作家の企画展などを開催しています。芸術の秋、ぜひご来館いただき心豊かなひとときをお過ごしください。

◆通常展「流水頌歌～穉月明最後の思い～」開催中
12月25日(月)まで
※詳しくは26ページをご覧ください。



伊賀市の文化財 149

市内の齋王伝承地
阿保頓宮跡（阿保城跡） 阿保頓宮跡 中柘植 堺屋跡（堺目砦跡） 伊勢路

齋王とは古代から中世の半ばまでおかれた、天皇に代わって伊勢神宮に奉仕した未婚の女性のことで、齋王とその一行が都と伊勢国とを往來した経路は時代によって変化しますが、両所の間に位置する伊賀国は長らくその通り道となっていました。そのため、市内には齋王関連の伝承地がいくつ也存在します。

都が大和国にあった奈良時代までは、阿保を経由する経路がとられており、ここには阿保頓宮がおかれた。頓宮とは、齋王（または天皇の一行が道中に休息をとるための仮の宮のことです。阿保頓宮の場所には諸説ありますが、その候補のひとつが初瀬街道を北に見下ろす丘陵の上にあります。現在は土塁が巡る城跡（阿保城跡）としての痕跡が残ります。

平安京に都が移ると、延暦16（797）年から伊賀国を通らない経路がとられるようになる仁和2（886）年までの約90年の間、齋王一行は近江国から柘植を経由して伊勢国に入っていました。中柘植の



▲阿保頓宮跡（北から）



▲堺屋跡から伊勢平野を望む

文化財課
☎ 22・9678 FAX 22・9667

一角、「齋宮芝」と地名の残る地には、この時代に頓宮が営まれたと伝わります。この付近を流れる柘植川・倉部川で身を清めた一行は頓宮で休息をとり、また次の頓宮をめざしたと想像されます。

また、都が山城国に移ってからも、齋王らの帰京の際には依然として阿保を経由する経路がとられることがありました。その際一行は、伊賀国との国境にある「堺屋」で喪服を谷に投げ捨てるなどの儀式を行ってから阿保頓宮に泊まりました。この堺屋の跡と伝えられる地が伊勢路の東端、現在の津市との市境にあたる標高約600メートルの山稜上にあります。こちらも現在は城跡（堺目砦跡）としての土塁などが残ります。いずれの地も今のところ頓宮や堺屋であったことを示すものは確認されていませんが、先人たちにより長きにわたってきらびやかな行列の姿がそこに思い描かれてきた、かけがえない地です。

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

「正しい情報」が世界を救う —上野図書館—

大げさな話をすると私は本に「救われた」ことがあります。

1980年代、テレビでは「ノストラダムスの大予言」を特集した番組が何度も放送されていました。子どもだった私は「1999年に世界が滅亡する」という話を信じ、不安を感じていました。

しかし、大人になり「ノストラダムスの大予言」を検証した本を読み、その不安は消えました。その本には予言はこじつけた解釈がされており、ブームの大元は虚構や創作が含まれた小説だと書かれていたのです。「なーんだ嘘だったのかー」検証された正しい情報に私は「救われた」のです。そして、同時に誤った情報を信じてしまう怖さに気がつきました。

このような誤った情報を信じてしまうことは人の心を傷つけることに繋がると思います。コロナ禍では誤った情報が不安をまき、それを鵜呑みにした

人が感染者や医療従事者、そしてその家族の心を傷つける差別を引き起こしました。

人の心を傷つけたり、差別を引き起こす誤った情報に対処するには、事実や歴史を学び、正しい知識と理解を持って正しい情報を選び取る必要があります。

特に子どもは「ノストラダムスの大予言」のような非現実的なことも信じてしまいます。世の中には感情をおおるために事実を意図的に隠して誤解を与えようとする情報もあります。偏見や差別をなくしていくためにも、誤った情報に惑わされることなく正しい情報を手に入れましょう。

図書館にはたくさんの本があり、人権週間には人権について特集もしています。正しい情報を選び取る力を身につけるために、図書館などを利用しながら、一人ひとりが学び接することが大切ではないでしょうか。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp

IGAMONO セレクション No.43

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

良質な伊賀産モロヘイヤの葉と茎を乾燥させ、パウダー状にした風味豊かな粉末タイプのモロヘイヤです。

天ぷら、お好み焼き、ハンバーグ、カレーなどいつもの料理に加えたり、野菜嫌いの子でもホットケーキやドーナツの生地、ヨーグルトや牛乳に混ぜて、おやつとして食べることもでき、気軽に不足がちな栄養が補えます。モロヘイヤはカルシウムやβカロチン、水溶性植物繊維、カリウム、ビタミン類など、日本のどの野菜と比較しても劣らない素晴らしい栄養分を含んでいます。



モロヘイヤ粉末



モロヘイヤ生産者の皆さん

エジプトが原産地でクレオパトラも好んで食べていたといわれる野菜の王様「モロヘイヤ」。

農事組合法人伊賀町モロヘイヤ生産組合（当初は有志グループ）では、米価低迷、減反政策など、農業を取り巻く環境が悪化する中、減反田を使った村おこし事業としてモロヘイヤの栽培を始めました。生葉の販売から始め、

茎や葉の粉末化やクッキーなどの加工品の販売に取り組み、現在では、粉末、モロつぶ、クッキー、おかき、かたやき、餅などのモロヘイヤ製品を取り扱っています。有機栽培・無農薬で栽培された安心・安全なモロヘイヤが、皆さんの健やかな人生のお供になることを信じ、栽培・販売にこれからも取り組んでいきたいと思っています。